目次

はじめに 3
第１章　碧南市の図書館サービス計画の策定にあたって 4
　１．計画の主旨と位置づけ 4
　２．計画の期間 4
　３．碧南市民図書館の概要 4
　　（１）碧南市の概要 4
　　（２）碧南市民図書館の概要 5
　　（３）碧南市民図書館の現状と課題 5
第２章　基本理念・基本方針 10
　１　豊かな情報源としての図書館 10
　２　誰もが利用しやすい図書館 10
　３　地域の歴史や文化・産業を育み、次世代へとつなぐ図書館 10
　４　市民とともに進化する図書館 10
第３章　サービス計画 11
　１．豊かな情報源としての図書館 11
　　（１）資料の収集 11
　　①　図書資料 12
　　②　視聴覚資料 12
　　③　逐次刊行物（新聞・雑誌） 12
　　（２）資料の保存と廃棄 13
　　（３）インターネットを使ったサービスの活用 14
　　（４）レファレンスサービスの強化と活用 15
　　（５）図書館からの情報発信 16
　　①　ホームページの活用 16
　　②　広報や地域誌等の活用 17
　　③　図書館キャラクター「へきにゃご」の活用 18
　２．誰もが利用しやすい図書館 20
　　（１）年齢別のサービス 20
　　①　子ども・ヤングアダルト 21
　　②　成人へのサービス 22
　　③　シニア層へのサービス 22
　　（２）障害がある方へのサービス 23
　　（３）多文化（国際化）サービス 24
　　（４）未利用者への働きかけ 25
　　（５）運営に関する再検討 25
　　（６）施設・設備等の整備 27

（７）安心して利用できる環境整備 28
３．地域の歴史や文化・産業を育み、次世代へとつなぐ図書館 30
（１）地域資料の収集と保存 30
（２）地域の企業や団体との連携 31
４．市民とともに進化する図書館 32
（１）ボランティアグループ・読書グループとの連携と支援 32
（２）市民の声に耳を傾ける体制づくり 32
第４章　計画推進のために 33
（１）計画進行の管理 33
（２）推進体制の整備 34
（３）人材と財源の確保 34
第５章　具体的な取り組み時期一覧 36

[資料編]
１　碧南市の図書館サービス計画（第二次）用語解説 40
２　碧南市の図書館サービス計画（第二次）策定の経過**エラー! ブックマークが定義されていません。**
３　来館者アンケート ..... **エラー! ブックマークが定義されていません。**
（１）調査の概要 ..... **エラー! ブックマークが定義されていません。**
（２）来館者アンケート結果 ..... **エラー! ブックマークが定義されていません。**
４　郵送アンケート ..... **エラー! ブックマークが定義されていません。**
（１）調査の概要 ..... **エラー! ブックマークが定義されていません。**
（２）郵送アンケート結果 ..... **エラー! ブックマークが定義されていません。**
５　碧南市の図書館サービス計画（第二次）に関わる名簿**エラー! ブックマークが定義されていません。**

はじめに

近年、我が国の社会情勢としては、高度情報化、少子高齢化、地方分権化がさらに進み、また景気の混迷による財政状況の悪化などがその特徴としてあげられます。

そんななか、生涯学習という人が豊かに生きてゆくために重要な活動を支える施設である図書館になにができるのかが、改めて問われています。

昭和 38 年の「中小都市における公共図書館の運営（中小レポート）」以降、個人への貸出業務が図書館の中核となるサービスとして位置づけられてきました。しかし、前述のように全国的な財政の悪化や利用者のニーズの多様化、そしてメディアや情報の変化にともなって、図書館側が提供するサービスの内容も変化させる必要が出てきています。

つぎつぎに現れる新しいメディアをはじめとした急速なデジタル化によって、年齢や性別を問わず、しかし特に若い世代を中心に、市民の生活スタイルに、ひいては図書館の在り方にも大きく影響を及ぼしてきていることは見過ごせません。

また、デジタル化によって、スマートフォンなどを通して安価に、そして気軽に、図書や雑誌が読め、映画を観ることができる時代になってきています。その影響も受けて出版点数は減少傾向にあり、図書館の貸出数の低下にもつながってきているのです。

碧南市民図書館は、これまで「そこへ行くのが楽しくなるような図書館をめざして…」という基本理念のもと、図書館を運営してきました。社会情勢が変化していく中でもこの理念を忘れることなく、市民から図書館に行けば探しているものが見つかる、新しい発見や楽しいことがある、という信頼を得られる、よりよい図書館づくりを目指して、新しい図書館サービス計画を策定し、図書館運営の指標としていきます。

第１章　碧南市の図書館サービス計画の策定にあたって

１．計画の主旨と位置づけ

碧南市では平成 22 年３月に、『第５次碧南市総合計画　2010⇒2020』を策定し、「ひとのわで 楽しさつくる みなとまち へきなん」をキャッチフレーズに、計画的な街づくりを推進しています。そのなかで、図書館は市民の知的活動を支援する貴重な学術資源として位置づけられています。

図書館では、平成元年に『碧南市の図書館計画　1989～2000』を、さらに平成 19 年３月には、『碧南市の図書館サービス計画（第一次）2007～2016』を運営計画として策定しました。また、子どもの読書活動を推進するための『碧南市子ども読書活動推進計画』を平成 17 年 12 月に策定したことを皮切りに、平成 23 年 3 月に第二次計画、平成 28 年３月に第三次計画を策定してきました。

これらの関連計画を念頭に置き、図書館の利用状況と照らし合わせながら、『碧南市の図書館サービス計画（第二次)』を策定し、よりよい図書館サービスを目指します。

２．計画の期間

計画期間は、平成 29 年度～平成 38 年度の 10 ヶ年の基本計画とします。なお、策定後も、社会情勢や図書館を取巻く環境の変化にともない、随時計画の見直しを図り、次回の第三次サービス計画へとつなげていきます。

３．碧南市民図書館の概要

（１）碧南市の概要

碧南市は、昭和 23 年４月に碧海郡大浜町、新川町、棚尾町、旭村が合併して誕生しました。昭和 30 年には西端区が編入合併され、市域が拡大しています。

愛知県のほぼ中央、中部圏の中心都市である名古屋市から 40ｋｍ圏内に位置し、市の北部は油ヶ淵、東部を矢作川、西部と南部は衣浦港と周囲を水に囲まれた平坦地で、温暖な気候に恵まれています。人口は 71,789 人（平成 28 年３月末)、市域面積は 35.86ｋ㎡です。



平成 17 年と平成 26 年の人口構造を比較すると、全体の人口がやや減少してします。また年少人口（0 歳～14 歳)、生産年齢人口が減少し、逆に高齢者人口（65 歳以上）が大幅に増加しており、少子高齢化が進行していることがわかります。

■人口構造比較

	人口	年少人口 （０～14 歳）	生産年齢人口 （15～64 歳）	高齢者人口 （65 歳以上）
全国平均	－	12.7%	60.6%	26.7%
碧南市 （平成17年９月末）	72,303	15.8%	66.8%	17.4%
碧南市 （平成26年９月末）	71,666	14.6%	62.9%	22.5%

＊『碧南市の統計　平成 18 年版、27 年版』

＊総務省統計局　平成 27 年度国勢調査抽出速報集計結果

（２）碧南市民図書館の概要

碧南市の図書館は、大正元年に設立した新川文庫を母体とし、昭和 23 年９月 15 日に創設されました。その後１度の移転を経て、昭和 44 年 11 月 18 日、市制 20 周年記念事業として新築された建物に、現中部分館である「碧南市立図書館」が開館しました。

平成３年には市の南部地域に南部分館（南部市民プラザ内)、平成５年には北部地域に本館機能をもたせた碧南市民図書館を開館し、それにともなって閉館していた旧市立図書館を改修し、平成７年に中部地域のサービス館として中部分館を開館しました。

他にも、市内の各地区にある７つの公民館図書室とのネットワークを形成しており、どの地区からも身近な場所に図書館の窓口を置くことで、サービスの向上に努めてきました。

（３）碧南市民図書館の現状と課題

『第５次碧南市総合計画　2010⇒2020』において、市民図書館では目標値を下記のとおり設定しています。

項目	基準値（H20 年度）	目標値（H32 年度）	実績(H27 年度)
人　　口	73,845	77,000	71,789
図書館貸出利用者数	156,397	160,000	130,414
図書館登録者 （市民登録者数）	28,219	30,000	33,000

図書館登録者（市民登録者数）は目標を達成できていますが、図書館貸出利用者数は平成 20 年度の基準値を下回り、平成 32 年度における目標値の 81%となっています。これは、『第５次碧南市総合計画　2010⇒2020』において人口が年 0.6%の割合で増加する見込みで目標値を設定したこと、また、経済状況の悪化により、資料費が平成 21 年度より

大幅に減額していることが影響しています。一般的に「資料費が減額するとその２～３年後から利用者数や貸出数も減ってくる」と言われています。本市における貸出冊数や利用者数もそれを裏づけるように減少しています。

新しい資料は貸出中のことが多いため「図書館にいつ行っても新しい本がない」状態となっています。「図書館で本を探してみよう」「図書館員に相談してみよう」と思うことができる図書館となるように、長期的に資料をどう揃えていくかが大きな課題となっています。

次に利用者の変化ですが、来館者へのアンケート結果を年代別で比較してみると、60 歳以上のシニア層利用者の割合が、平成 19 年度の 15%から平成 28 年度では 34.6%と大きく増加しています。

日常的に職員が見ている館内の様子でも、じっくり新聞や図書などを読みながら、長時間滞在するシニア層の利用者が増えていることを感じます。利用者層の変化に対応した資料の購入やサービスが必要となってきています。

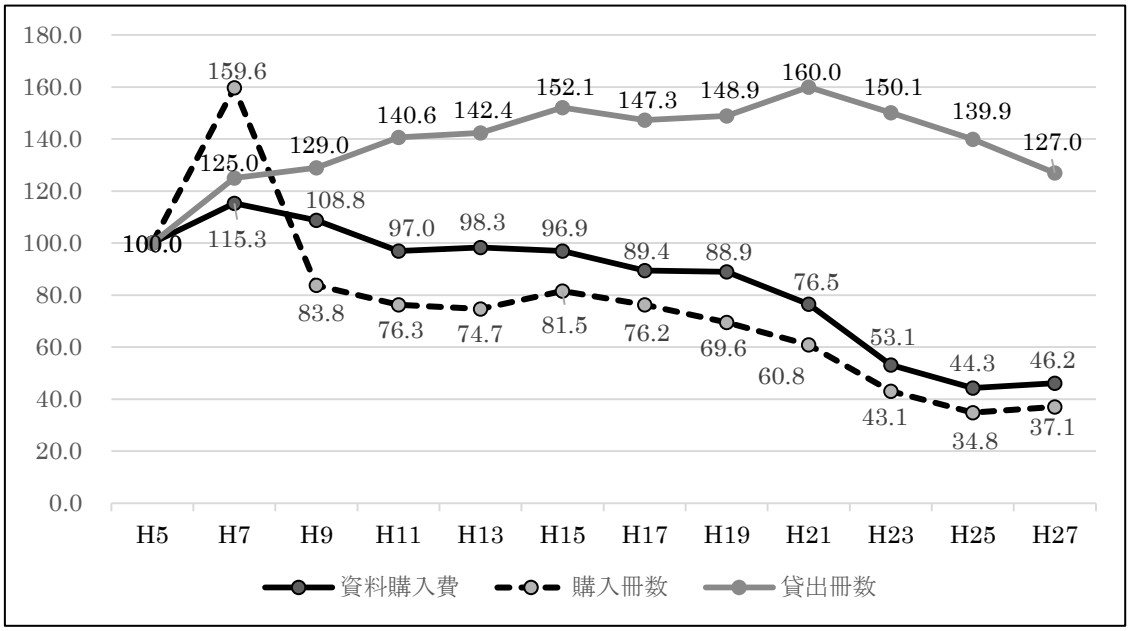
また、図書館を取り巻く状況も大きく変化しています。インターネットの普及によって、インターネットで公開される情報が増加し、言葉の意味などを調べるために辞典類を利用する人は少なくなっています。反対に、図書館職員の経験から「インターネットで調査したが、出てこなかったから図書館に調べに来た利用者」は増加しているのではと感じます。そういった利用者にどんな資料が提供できるのかは、資料に対する知識の有無、検索技術の善し悪しで大きく変わるため、職員の専門性が問われています。

また、他の公共施設と比較して図書館の利用者が多いことから、全国的にもこれからのまちづくりに「集客施設」としての特性も注目されはじめています。

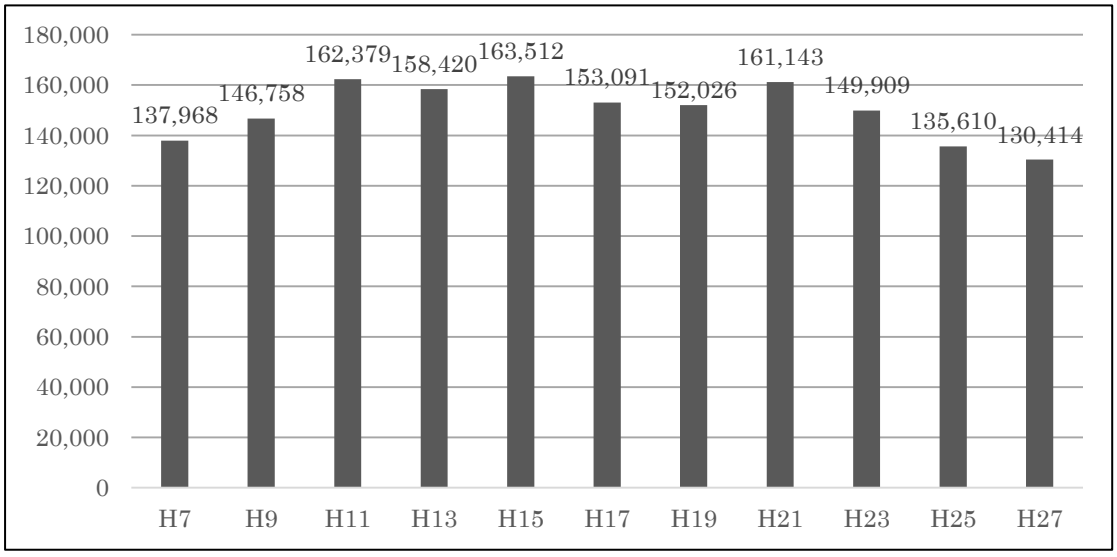
今回の計画を策定するにあたり、本館・分館において来館者に２日間で行ったアンケート調査（以下「来館者アンケート」）と、図書館を利用していない市民にも意見をいただくために郵送でのアンケート調査を実施しました（以下「郵送アンケート」）。

これらのアンケートと図書館の実績値で現状と課題を分析し、取り巻く環境の変化に対応し、市民に必要とされる図書館であるにはどうすればよいのか、図書館サービスのあり方を項目別に考えていきます。

■平成５年～27 年の資料購入費等の推移（２年おき）　単位：％



■平成７年～27 年の利用者数（延べ）の推移（２年おき）　単位：人



※平成５年の利用者数（延べ）は数値がでないため平成７年からの比較とします

■平成５年（新図書館開館）からの利用者数等推移

	昭和62年度	平成5年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度
人　口	65,045	67,740	67,910	67,853	68,165	68,220	68,257	68,382
利用者数（延べ/人）	—	—	—	137,968	140,369	146,758	157,795	162,379
資料購入費	14,075	46,094	79,346	53,168	52,438	50,170	46,392	44,690
貸出冊数	166,884	469,039	552,743	585,925	579,499	605,279	648,919	659,526
（冊/人）	2.6	6.9	8.1	8.6	8.5	8.9	9.5	9.6
購入冊数	9,362	26,536	16,819	23,715	23,752	22,231	20,189	20,252
（冊/人）	0.14	0.39	0.25	0.35	0.35	0.33	0.30	0.30

	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
人　口	68,729	69,316	70,129	70,943	71,941	72,584	73,352	74,092
利用者数（延べ/人）	162,084	158,420	161,649	163,512	158,276	153,091	154,895	152,026
資料購入費	86,677	45,290	45,666	44,650	44,252	41,218	41,539	40,990
貸出冊数	675,736	668,043	695,680	713,407	701,530	690,847	704,176	698,239
（冊/人）	9.8	9.6	9.9	10.1	9.8	9.5	9.6	9.4
購入冊数	41,215	19,814	21,922	21,635	19,714	20,229	19,284	18,459
（冊/人）	0.60	0.29	0.31	0.30	0.27	0.28	0.26	0.25

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
人　口	73,845	73,342	73,113	72,754	72,159	71,876	71,685	71,789
利用者数（延べ/人）	156,397	161,143	153,968	149,909	140,613	135,610	127,161	130,414
資料購入費	44,826	35,269	30,759	24,474	23,059	20,437	20,829	21,287
貸出冊数	718,553	750,345	713,130	703,931	667,331	656,201	609,640	595,876
（冊/人）	9.7	10.2	9.8	9.7	9.2	9.1	8.5	8.3
購入冊数	18,729	16,146	14,155	11,436	11,463	9,247	9,768	9,839
（冊/人）	0.25	0.22	0.19	0.16	0.16	0.13	0.14	0.14

＊『日本の図書館』
＊『碧南市の統計』
＊『碧南市の図書館』

■類似自治体との比較（6 万人～10 万人の自治体）

		碧南市	知立市	蒲郡市	田原市	笠間市	稲城市
人　　口	（千人）	72	71	82	65	79	86
館 数 計	（館）	3	1	1	3	3	6
職員総数	（人）	32	17	25	38	46	48
正規職員数	（人）	11	6	－	10	16	8
（内有資格者）	（人）	8		－	7	6	3
その他職員	（人）	21	11	25	28	30	40
蔵 書 数	（千冊）	530	217	292	431	516	597
雑 誌 数	（種）	209	109	111	399	393	369
貸出件数	（千点）	573	408	457	745	1,166	1,238
予約件数	（千件）	34	12.8	36.2	77	101.1	230.5
図書館費	（千円）	120,311	61,798	45,477	61,630	142,789	254,760
（内資料費）	（千円）	20,437	18,455	21,769	37,264	30,609	39,683
（内図書費）	（千円）	15,976	16,261	16,432	24,269	―	24,895

＊『日本の図書館 2015』

※資料費＝図書費、新聞・雑誌、ＡＶ資料

※図書館費等は 2013 年の決算額

第２章　基本理念・基本方針

平成元年に策定した『碧南市の図書館計画　1989～2000』では、基本理念を「そこへ行くのが楽しくなるような図書館をめざして・・・」と定め実行してきました。

今回『碧南の図書館サービス計画（第二次)』を策定するにあたり、碧南市民図書館の現状と課題を踏まえ、新たに４つの基本方針を設定し、その実践に努めます。

１　豊かな情報源としての図書館

地域の情報拠点としての役割を担うため、その基礎となる資料の適切な収集・保存・廃棄に努めます。またインターネットやさまざまなネットワークを活用することで、より多くの情報の収集・提供に努め、豊かな情報源としての図書館を目指します。

２　誰もが利用しやすい図書館

乳幼児から高齢者・外国人・さまざまな障害をもつ方まで、それぞれに応じたサービスを提供します。図書館に来る人を待つだけでなく、これらの人たちに対しては図書館が出かけていってサービスすることで、誰もが利用しやすい図書館を目指します。

３　地域の歴史や文化・産業を育み、次世代へとつなぐ図書館

碧南市の歴史・文化・産業に関する資料の収集保存に留意し、市の歴史や文化を知ることで碧南を愛する人を増やし、未来に知の財産を残すよう努めます。

また、学校等あるいは企業・団体との効果的な連携を図り、地域に役立つ情報・資料作りを目指します。

４　市民とともに進化する図書館

図書館はそこを利用する利用者のためのものであり、常に市民とともに歩み、進化し続ける存在であることを目指します。

第３章　サービス計画

１．豊かな情報源としての図書館

（１）資料の収集

【現状及び課題】

アンケートの結果から、来館目的は資料の貸出及び館内での読書が大多数を占めていることがわかります。将来を見越しながら適切に資料の収集を行うことは、図書館の基本的な業務であり、かつ重要なものでもあります。

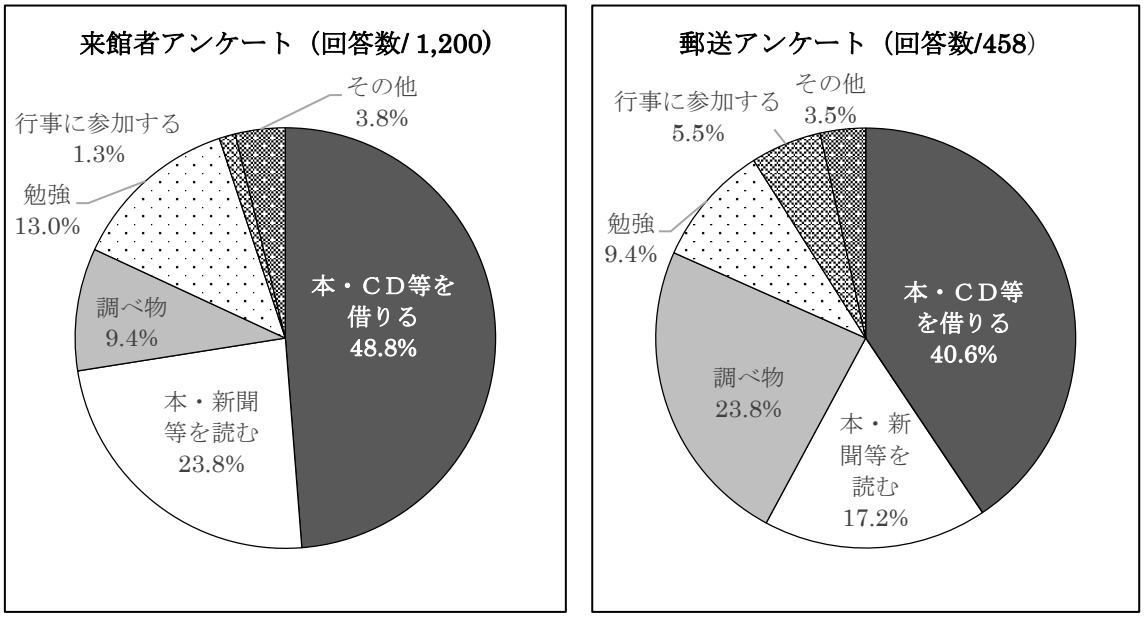
碧南市民図書館では、各館の職員が集まって週に１回選書会議を開き、購入する資料の選定を行っています。今後も利用者の動向を肌で感じている職員が選書を担当することで、適切に資料の選定を行ってまいります。

信頼される図書館サービスを行うために、高額であってもある程度の基本図書類を購入して保存していくべきであると考えています。限りがある資料費や人員を有効活用し、様々な分野に関して基本的で、最新の情報を踏まえた資料を収集し、市民が「知ること」「学ぶこと」「楽しむこと」ができる蔵書を構築していくことが課題です。

しかし近年、資料費は減額されてきているため、市民の利用要求に見合った新しい資料の購入が年々減っており、県内他市との相互貸借※1 を利用して、借用し対応していますが、充分だとは言えません。

利用者の動向を的確に把握し、購入する資料を厳選しながら長期的に蔵書構成を把握・管理できる職員の育成が不可欠で、職員の研鑽を継続的に行うこともまた重要な課題です。

●アンケート設問：図書館来館の目的　※複数回答可



【目指す姿】

地域の重要な情報源としての役割を担うため、その基礎となる情報・資料の適切な収集・保存に努めます。特に碧南市の行政資料をはじめとした郷土に関わりのある資料を積極的に収集し、その収集した資料や情報を整理し、使いやすい形にしていきます。また、社会の変化にあわせ、新しい情報媒体にも目を配り、導入について随時検討していきます。情報・資料の収集だけでなく、図書館が情報の発信源となることを念頭に置き、豊かな情報源としての図書館を目指します。

① 図書資料

図書などの紙媒体の資料は手に取りやすく、内容が正確で、信頼の置ける情報媒体として、図書館資料の大部分を占めています。利用者から求められる資料がどんなものかを考慮し、的確な選書に努めます。

② 視聴覚資料

音声や映像資料は、新しい媒体にも留意しながら収集していきます。隣接する芸術文化ホールの催事に関連しての収集、提供も行っていきます。

また、障害を持つ方や、外国語を母国語とする方が利用できるような資料にも留意して収集します。

③ 逐次刊行物（新聞・雑誌）

新聞については３館で延べ 18 種類、雑誌については延べ 292 種類を所蔵しています。保存は本館が中心に行い、永久に保存するものから、短期間で廃棄するものまでを見極め、取決めて保存してまいります。

■新聞・雑誌の所蔵状況　平成 27 年度

種　別	本　館	南　部	中　部
新　聞	9	5	4
雑　誌	167	62	63

【具体的な取り組み】

・本館分館それぞれの利用者層にあわせた選書
・碧南市に関する資料の積極的な収集
・芸術文化ホールの催事に関連した資料の収集
・多言語や字幕入りの映像資料の収集
・雑誌のスポンサー制度の導入
・状況の変化に対応しての選書基準の見直し

（２）資料の保存と廃棄

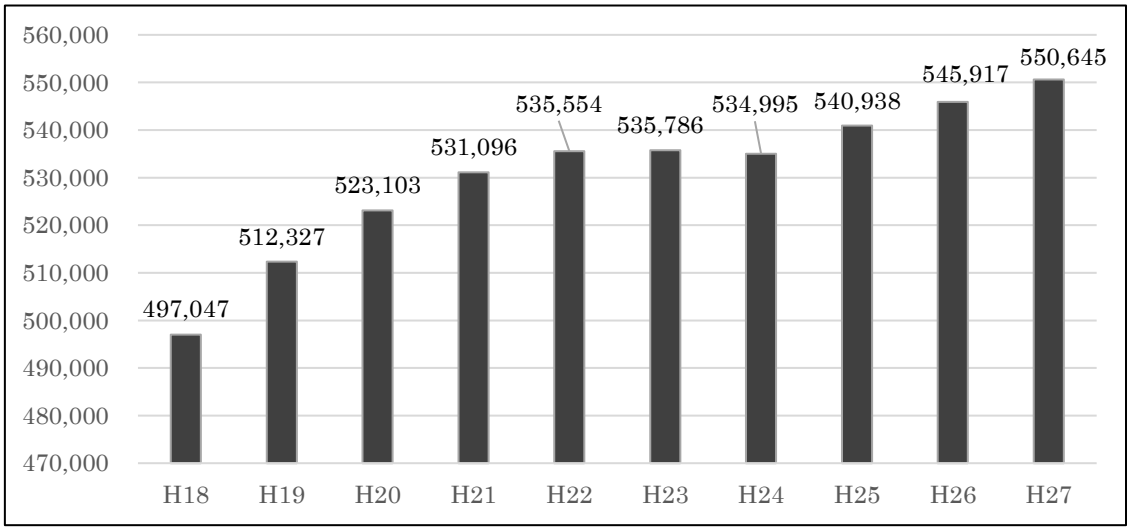
【現状及び課題】

碧南市民図書館の蔵書数は年々増加しており、平成 27 年度の蔵書数は全館で 550,645 点（一般図書 380,508 冊、児童書 119,386 冊、ヤング資料 11,636 冊、地域資料 18,635 冊、視聴覚資料 20,480 点）となっています。

しかし、常に新鮮な資料を利用者に提供していくためには、資料の特徴や利用状況に配慮した適切な保存と廃棄を行うことが必要です。本館が開館 20 年を越え、蔵書収容数も限界を迎えています。この先は、保存する資料と廃棄する資料を見極め、将来の利用者までを見据えた長期的な利用に耐えうる蔵書の構成となるように心がけていきます。

愛知県では県図書館を中心に、「あいちラストワンプロジェクト」として、県内の図書館が連携し、廃棄される資料のうち県内で最後の１冊となる本は保存しようという事業を行っています。他の図書館との連携を図り、効率的な資料の保存に努めます。

■蔵書冊数の推移（平成 18 年～平成 27 年）　単位：冊



【目指す姿】

限られた所蔵スペースを有効に活用し、本市の地域性や利用の状況に合った資料の保存を図ります。また、保存した資料が有効的に利用されていくためには、その管理にも労力が必要となります。ただ集めておくだけでなく、利用状況を適宜調査し、保存するか否かを判断しながら、適正に蔵書が構築されていくことが求められます。

また、「あいちラストワンプロジェクト」への参加を継続し、近隣図書館とも連携しながら、愛知県にとっても必要となる、豊かな情報源を保持することを目指します。

【具体的な取り組み】

・効率的で適正な蔵書の保存
・不必要となった資料の廃棄
・「あいちラストワンプロジェクト」への参加継続

（3）インターネットを使ったサービスの活用

【現状及び課題】

近年、インターネットをはじめとしたＩＴの発展は目覚ましく、ことにスマートフォンの普及により、誰もが日常的に多くの情報を手軽に入手できる時代となっています。音楽・映像、そして新聞や図書などもデジタルコンテンツ※2として安価に、容易に提供されるようになっています。一方で、図書館でのデジタルコンテンツの導入には、著作権の問題や、紙の図書と比較して使用料が結果として高価である点、デジタル機器を所有していないと使えない等の問題もあるため、どのように導入し、提供していくかの検討が必要です。

碧南市民図書館では、デジタルコンテンツとして、国立国会図書館が提供する「デジタル化資料送信サービス」と、法情報総合データベース「Ｄ１－Ｌａｗ」（ディーワンロウ）を館内で提供しています。また、利用者用のインターネット端末を館内設置してあり、紙媒体の資料とインターネット情報ともに利用できるようにしています。一方で利用者が持込んだパソコンの電源確保や館内のＷｉＦｉ導入はされておらず、利用者から導入を求める声もあがっています。

しかし、碧南市役所全体でのネットワークとなっているため、市の情報セキュリティ基準に沿った安全な運用が必要であり、関係部署と調整を図りながら検討してまいります。

【目指す姿】

紙媒体の資料とインターネット情報を快適に利用できるよう、デジタルコンテンツの導入を検討していきますが、情報セキュリティ面に留意することが必要です。

また、どの程度の資料費をあてることが可能であるか、ソフトの普及状況、利用者の動向等をみながら調整を行っていきます。

【具体的な取り組み】

・利用者用インターネットパソコンの維持確保
・有料データベースやデジタルコンテンツ導入の検討
・持込みパソコンの電源確保や館内のＷｉＦｉ導入の検討

（4）レファレンスサービス※3の強化と活用

【現状及び課題】

レファレンスサービスは、図書館の重要な役割のひとつであり、全館で簡易なものを含め、年間約 6,000 件の利用があります。近年では、寄せられる質問が多岐にわたり、高度な質問も増えてきているのが現状です。

レファレンスでは自分の欲しい情報を上手に説明できる利用者もいれば、聞きたいことを上手く説明できない利用者もいます。カウンターではこれらの利用者から、求めている課題や事項を上手く聞き出し、適切な回答を行っていくことがますます重要になってきています。

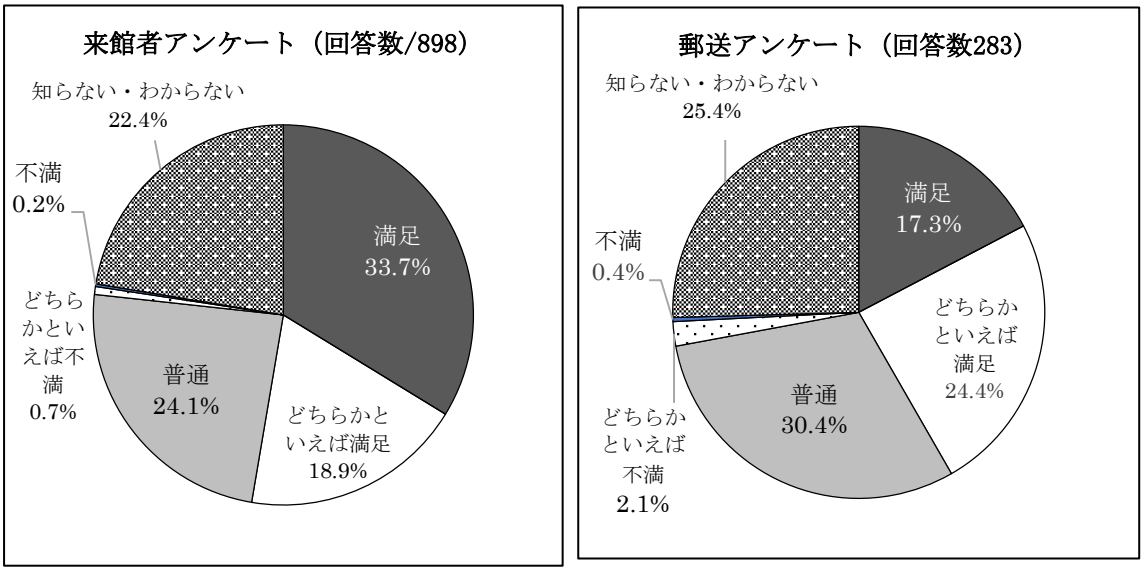
この点については、職員の力量に負うところが大きいですが、経験の少ない職員もおり、個人差のあることが課題です。レファレンスの技法を伝え、職員間で情報の共有ができるよう、事例を記録し評価を行っていますが、そのうえで継続的な職員の研鑽が必要となっています。

また、アンケートの結果から、よりまだ多くの利用者がレファレンスサービスを知らないということがわかりました。更なる継続的なＰＲが必要です。

【目指す姿】

収集した図書や情報と利用者を結ぶために、レファレンスを機能させ、市民が抱える問題や課題解決に役立つ図書館を目指します。そのために、職員の継続的な研修を行い、レファレンス能力の向上に努めます。

●アンケート設問：レファレンスサービスの満足度



【具体的な取り組み】

・サービスの周知
・職員の能力向上のための研修の実施
・パスファインダー※4の作成
・職員に対して気軽に声をかけることのできる雰囲気づくり

（５）図書館からの情報発信

① ホームページの活用

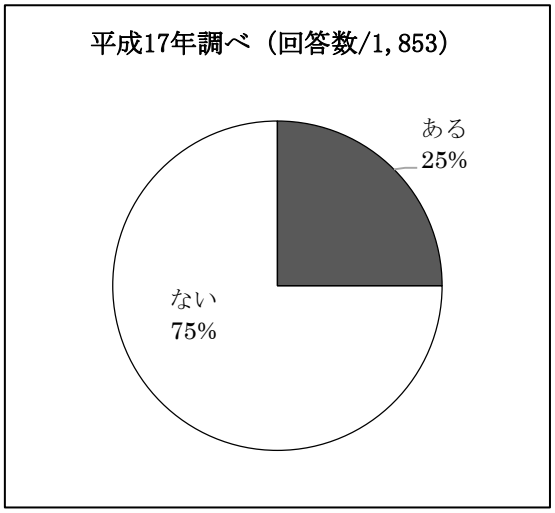
【現状及び課題】

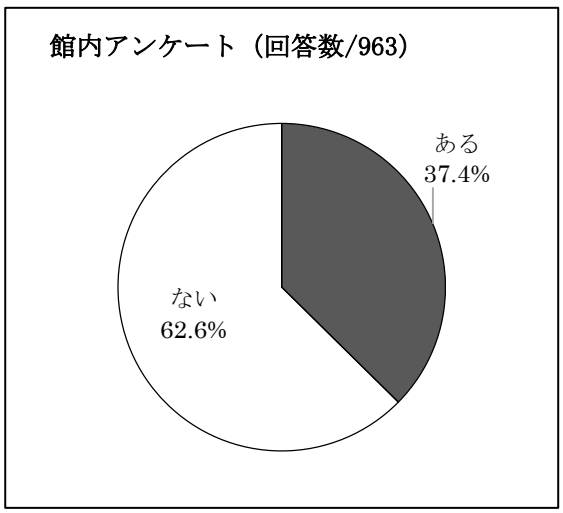
携帯電話･ＰＨＳ及びパソコンの世帯普及率はそれぞれ 94.6%、78.0%となっており、そのうちのスマートフォンは 64.2%となっています（平成 26 年度末　総務省調べ）。

碧南市民図書館でも図書館のホームページからの予約件数が年々増加しています。しかし、来館者アンケートの結果から、図書館のホームページを見たことがあるという人は 37.4%に留まりました。10 年前の調査結果の 25%より増加しているものの、まだ多くの利用者は見たことがないという結果となっています。

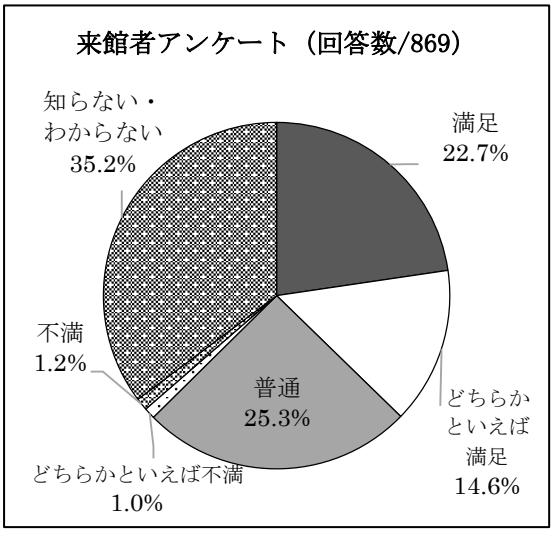
ただし満足度では、利用したことがある方のほとんどは「普通」もしくは「満足」であると回答しています。

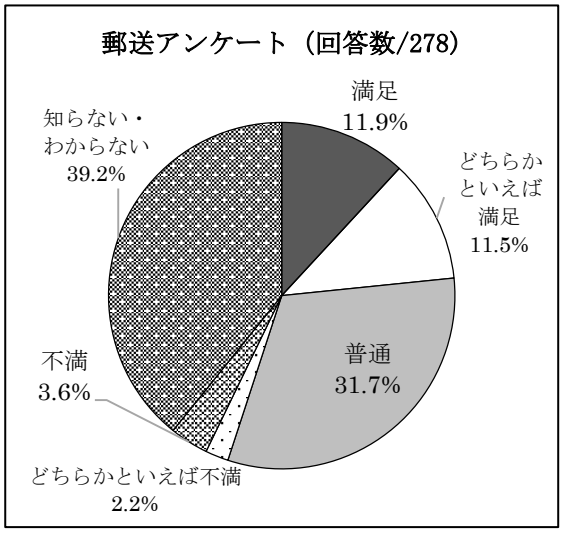
●来館者アンケート設問：碧南市民図書館のホームページを見たことがありますか？





●アンケート設問：ホームページの満足度





【目指す姿】

碧南市の図書館ならではの情報を公開することを心がけ、郷土に関するものを中心としたレファレンス事例集や、図書の紹介等のページを充実させます。

今後も利用者にとって利便性の高い機能が導入できるかを常に検討し、魅力的な内容となるように努め、ホームページそのものを含めたＰＲを行っていきます。

【具体的な取り組み】

・ホームページ利用のＰＲ
・わかりやすく、魅力的なホームページづくり
・新しいコンテンツの検討と導入
・郷土のレファレンスを中心とした事例集の積極的な公開

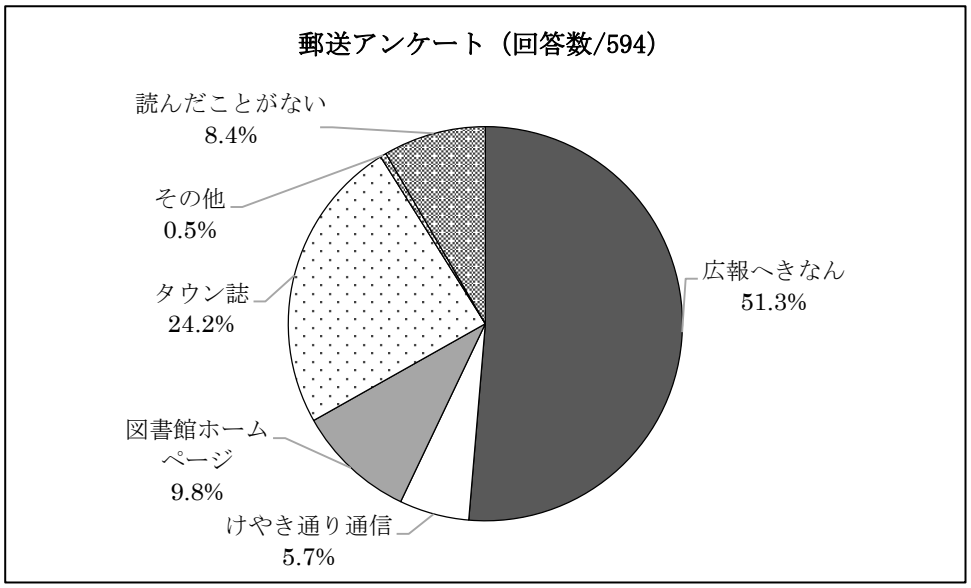
② 広報や地域誌等の活用

【現状及び課題】

新聞や地域のラジオ、タウン誌などの媒体は、図書館を利用していない人や、インターネット等を使わない利用者への有効な図書館の情報といえます。アンケート結果から、市が発行する広報に次いでタウン誌の認知度が高いことがわかります。

●アンケート設問：図書館が発信している情報で、知っているものはどれですか。

※複数回答可



【目指す姿】

新聞や地域のラジオ、ミニコミ誌などの媒体は、図書館を利用していない人や、インターネット等を見ない利用者に有効的な図書館情報ですが、図書館から情報を届け、興味を持ってもらうためにもより一層積極的に情報を発信していきます。

併せて、市民への基本的な情報発信のための媒体である市広報への掲載も効果的に行っていきます。

【具体的な取り組み】

・積極的な報道発表

・「フリモかわら」「たんぽぽニュース」等、地域紙やタウン誌の活用

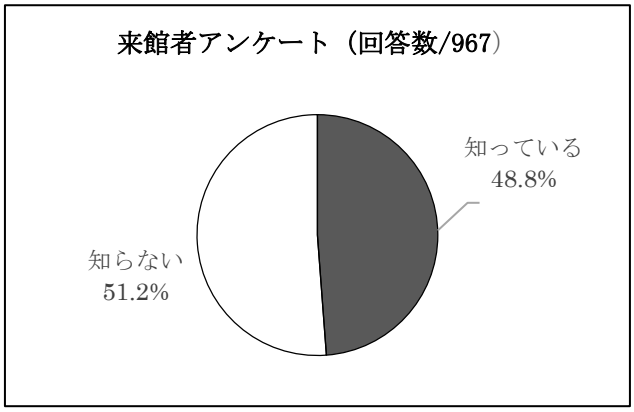
③図書館キャラクター「へきにゃご」の活用

【現状及び課題】

図書館のキャラクター「へきにゃご」は、平成 25 年に図書館本館の開館 20 周年を記念して誕生し、翌年には市民から着ぐるみが寄贈されました。図書館だけでなくさまざまなイベントへ積極的に参加し、小さな子どもから大人まで人気を博しています。

しかしアンケートの結果から、その認知度はまだまだ低いと言わざるを得ません。今後は新しい運用方法を検討しながら、図書館のＰＲ活動に活用していきます。

●アンケート設問：碧南市民図書館のキャラクター「へきにゃご」を知っていますか？



【目指す姿】

　へきにゃごを活用し、図書館の楽しい雰囲気が読書へつながっていくようなイベントを開催し、読書の啓発活動を推進します。

【具体的な取り組み】

・へきにゃごを活用したイベントの開催
・へきにゃごブログのＰＲ



２．誰もが利用しやすい図書館

（１）年齢別のサービス

【現状及び課題】

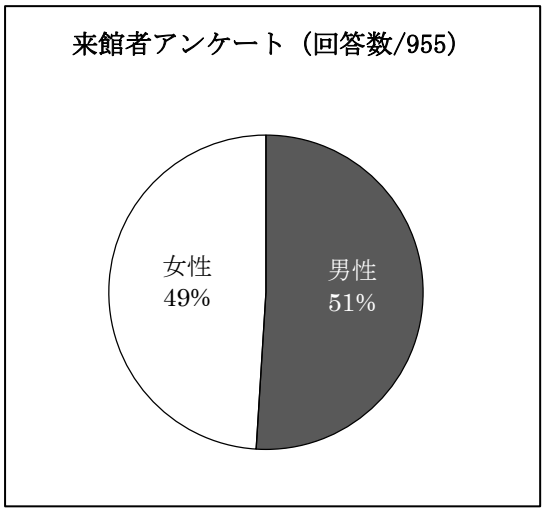
図書館は、乳幼児から高齢者まで、幅広い年齢層が利用する施設です。またそのなかにはさまざまな障害を持つ方や、日本語を母国語としない方も含まれます。

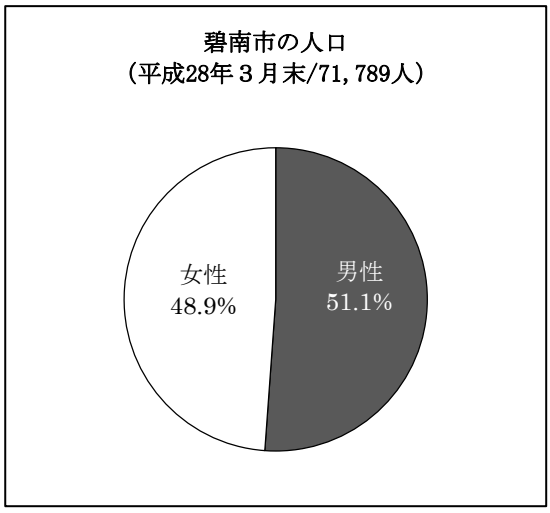
来館者アンケートによる利用者の状況を見ると、60 代の利用者の割合が 22.7%と一番高くなっています。次に 40 代の 18.3%、50 代の 15.6%となっています。碧南市の人口の状況と比較すると、0 歳～10 代、20 代、70 代以上の利用者割合が低くなっています。子どもについては保護者が子どもの代わりに資料を選んでいることもあること、70 代以上については、来館が困難な方もいることも予想していますが、20 代の利用者にとっても魅力的な図書館であるかどうかは今後も調査し、検証することが必要だと考えています。

また、昨年度の貸出状況を見ると、女性では 30 代、40 代の利用が多く、男性では 60 代の利用が突出して多い傾向にあります。分野別にみると、小説（Ｆ）、ついで家事・育児が中心（５類）の貸出しが多くみられ、30～40 代では５類、50 代以上は小説を多く利用していることがわかります。また、30～40 代の子育て世代の女性では、児童図書を多く借りていることが特徴の一つとしてあげられます。このような利用傾向を把握し、求められる資料をタイミング良く提供できるように努力します。

●アンケート設問：あなた自身についておたずねします

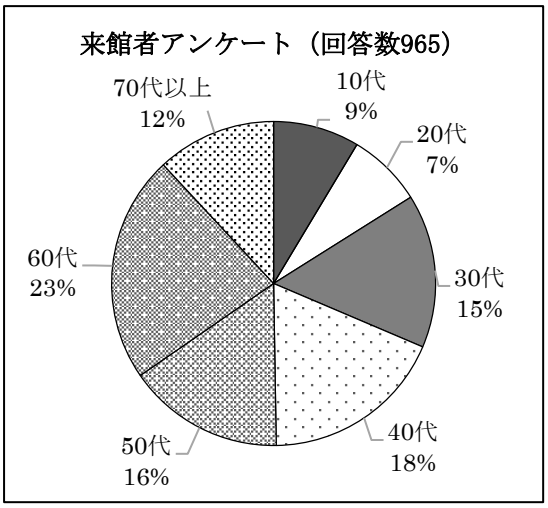
○性別

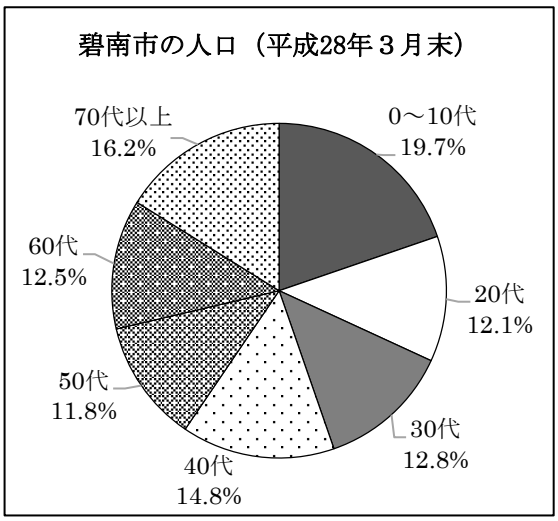




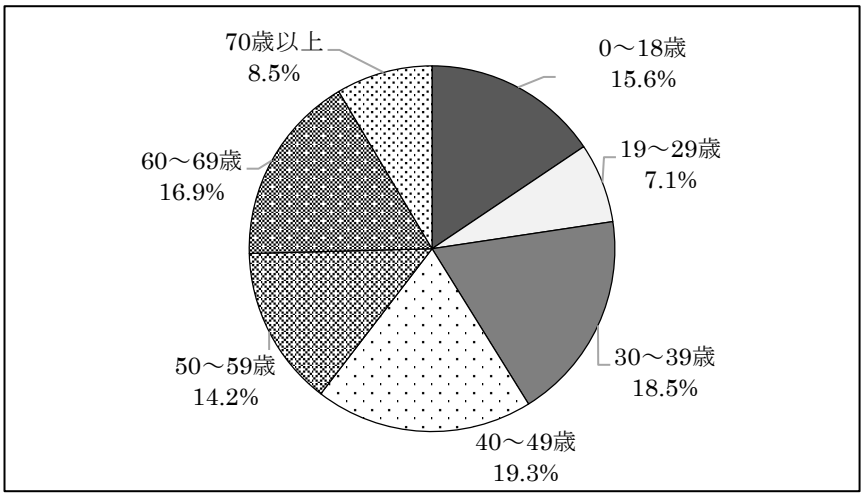
●碧南市の人口状況（平成 28 年３月末）

○年代





■年齢別貸出冊数（平成 27 年度）



① 子ども・ヤングアダルト※5

【目指す姿】

『碧南市子ども読書活動推進計画（第三次）』（平成 28 年３月）に基づき、家庭・地域における子どもの読書活動の推進、学校等における子どもの読書活動の推進、図書館における子ども読書活動の推進、推進体制の整備という４つの柱を念頭に、子どもたちの読書を支援していきます。

図書館は、子どもたちが読書に親しみ、自分で調べることの楽しさを知るきっかけとなる場所です。碧南市では市内に３つの図書館がありますが、それでも子どもの足では気軽に出かけられないこともあります。そういった図書館から遠い地域の子どもたちにも、本を手に取ってもらえるような体制を構築するように努めます。

また、子どもたちだけでなく、その保護者を含め、子どもの読書を取り巻く環境までをも広く視野に入れ、幼稚園・保育園や学校、家庭、行政との連携を図り、子ども

が読書を身近に感じられる環境づくりを目指します。

【具体的な取り組み】

・保健センターでの母子健康手帳交付時、産前産後の図書館活用のＰＲチラシ配布
・「よむよむタイム」の啓発
・各施設でのおはなし会の実施
・市民図書館の団体貸出[※6]の活用
・読書活動を取り入れた学習の実施
・各教科における調べ学習に役立つ資料の充実
・学校図書館司書研修会の開催
・幼稚園、保育園での継続した読み聞かせ
・落ち着いて楽しめる読書スペースの確保
・妊娠期の保護者を対象とした図書館ＰＲ行事の検討と実施
・図書館キャラクター「へきにゃご」を活用した図書館のＰＲ
・団体貸出用の外国語図書の充実
・教科書に準拠した資料の充実および買い替え
・既存の推薦図書リストの見直しと改訂

②成人へのサービス

【目指す姿】

日常の娯楽や趣味として必要な資料だけでなく、国際的な動きや歴史、社会の情勢にも気を配り、仕事や自己研鑽、地域の課題解決のための資料や、情報の収集提供に努めます。入門的なものから、さらに次のステップへと進むための橋渡しとなるような資料を収集するように留意します。また成人向けの教養講座等の開催や、手軽に楽しめる催しもの開催を検討していきます。

【具体的な取り組み】

・知的好奇心を刺激するような講座等の開催
・時事問題をとりいれた、複数の小規模特集コーナーの設置

③シニア層へのサービス

【目指す姿】

シニア層の人口の増加にあわせるように、図書館利用者にもその世代の増加傾向がみられます。昨年度の貸出状況から、50 才以上の利用者は小説の貸出が多いことがわかります。単行本だけでなく、近年発行されている文庫本は活字が大きく読みやすいこともあって、シニア層の利用が増えています。世代に合わせた必要とされる読書の傾向を把握し、選書に反映させていきます。

また、余暇が増え、読書だけでなく、新しい趣味や勉強にチャレンジしたいと考えたときに、その一助となるような資料を提供できるように努めます。

この年代の利用者には、貸出だけでなく館内で雑誌や新聞を閲覧する目的で来館される方も多く見受けられます。利用者が館内で快適な時間を過ごすための配慮をしてまいります。

今後もシニア層の利用者は増加するものと予想されます。どんなサービスが必要となるのかを随時検討し、そのサービスを充実させていきます。

【具体的な取り組み】

・見やすい活字資料の充実
・シニア層が使いやすい、音声・映像資料の拡充
・高齢者施設向けの紙芝居などの購入

（２）障害がある方へのサービス

【現状及び課題】

図書館では、ボランティアによる対面朗読や、点字・音声図書の郵送貸出、音声による図書館だより「声のけやきどおり通信」等の作成、発送などのサービスを行っています。平成 28 年４月から障害者差別解消法が施行されたことをうけ、健常者と同じような図書館サービスを受けられるように配慮を行うことが求められています。

しかし、対象者にサービス内容が周知されておらず、現在サービスを受けている利用者も高齢化に伴って利用が減少していくため、サービスの周知を図るとともに図書館として適切な支援を考えていくことが求められています。

【目指す姿】

さまざまな障害を持った方が利用しやすい図書館作りを進めていきます。また、ボランティア団体との連携を図り、さらにボランティアを対象とした研修会等も行いながらサービスの充実に努めます。

【具体的な取り組み】

・障害者サービスのＰＲ
・関連する行政担当や、福祉施設との連携
・館内表示やバリアフリー化の定期的な見直し
・耳の不自由な方のための日本語字幕入りの映像資料の収集
・点字、音声、大きな活字の利用案内の作成
・サピエ※7、ライトハウス※8 等、関係機関との情報交換

（３）多文化（国際化）サービス

【現状及び課題】

碧南市は人口 71,789 人に対して、外国人が 3,385 人（平成 28 年３月末）で、その割合は 4.7％と高い数値となっています。また小学校でも英語の授業がはじまり、日本人の利用者からも外国語資料を求める声も上がっています。

現在、碧南市民図書館では外国語資料を一般図書で 2,781 冊、児童図書で 1,166 冊所蔵しています。また、英字新聞を１紙、外国語雑誌２誌（英語１誌、ポルトガル語１誌）を購入しています。しかし近年は、新しい外国語図書の購入はほとんどできていないため、資料の更新を検討してまいります。

■碧南市の外国人在住者国別上位６ヶ国

国名		人数（全体の割合）	国名		人数（全体の割合）
1	ブラジル	1,688 人（49％）	4	ベトナム	253 人（7.4％）
2	フィリピン	382 人（11.3％）	5	インドネシア	214（6.3％）
3	中国	348 人（10.3％）	6	ペルー	153（4.5％）

■碧南市の外国人在住者の公用言語上位６ヶ国語

公用言語		人数（全体の割合）	公用言語		人数（全体の割合）
1	ポルトガル語	1,688 人（50％）	4	スペイン語	285 人（8.4％）
2	フィリピノ語	382 人（11.3％）	5	ベトナム語	253 人（7.5％）
3	中国語	354 人（10.5％）	6	インドネシア語	214 人（6.3％）

＊全体 3,385 人（平成 28 年 3 月末）

【目指す姿】

市役所関係課等と連携し、必要とされている資料の収集を行っていきます。また、外国語を母国語とする人のための資料だけでなく、学校とも連携し、外国語を学ぶ日本人のための資料もそろえていきます。

【具体的な取り組み】

・在住外国人を考慮した言語の資料収集
・日本語や日本の生活を学ぶための資料の購入
・外国語で書かれた行政資料の収集

（４）未利用者への働きかけ

【現状及び課題】

平成 28 年度末の図書館の登録者は 47,646 人で、うち碧南市民の登録者は 33,000 人となっており、45％の市民が図書館の利用者カードを保有していることになります。しかし、半数以上の市民が図書館を利用していないということにもなります。

今回行った郵送アンケートでは、図書館を利用していないと回答した方の主な理由として「興味がない」というものが一番多い理由でした。また「(サービスが) どのように変わったら図書館を利用したいですか」という設問には、「高齢者サービス」「ＡＶ資料の充実」という回等が多く寄せられています。

そういった図書館を使わない、あるいは関心がないという市民に、いかに図書館に足を運んでもらうか、またどうやって図書館の価値と認知度を高めてもらうかを検討していくことが必要といえます。

【目指す姿】

いままで図書館に興味を持っていなかった方たちに、少しでも図書館に目を向けてもらうための取り組みを検討する材料として、定期的な郵送アンケートを行い、その動向や意見を伺っていきます。

また、市民が関心を持つようなイベントを開催して話題づくりを行い、報道発表や、市広報・タウン誌等を積極的に活用することで、それらの情報を発信し、新しい利用者層を増やしていくことを目指します。

【具体的な取り組み】

・５年ごとの郵送アンケートの実施
・話題となるようなイベントの開催
・マスコミを利用した情報発信

（５）運営に関する再検討

【現状及び課題】

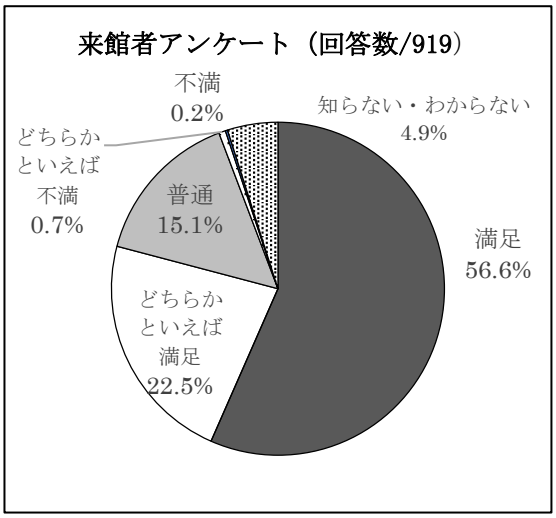
図書館ではここ 10 年で、館内整理日を減らし、年末年始の開館日を増やすなどして開館時間や開館日数を増やしてきました。平成 27 年度では本館 295 日、分館 296 日の開館日数となっています。開館時間は、本館は平日 19 時まで開館しているものの、アンケートに寄せられた意見からはさらなる開館時間の延長や、分館の夜間延長、また土日祝日の夜間開館を望む声が寄せられています。

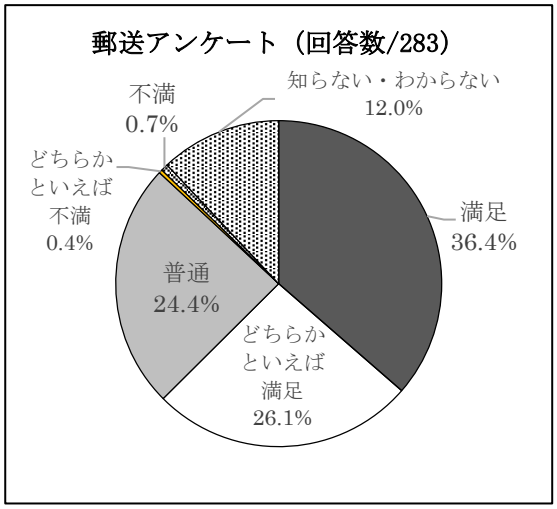
しかし、開館時間を拡大すれば、それに伴う光熱費・人件費の問題、職員数の確保などの懸案事項が発生します。また開館日を増やすことで、閉館時に行っている書架の整理や本の移動、職員間の情報交換や研修等も実施することができなくなり、利用しやすい書架づくりにマイナスに働く面も否めません。

今後は利用状況だけでなく、運営側、つまり市の予算等との状況とも照らし合わせ、

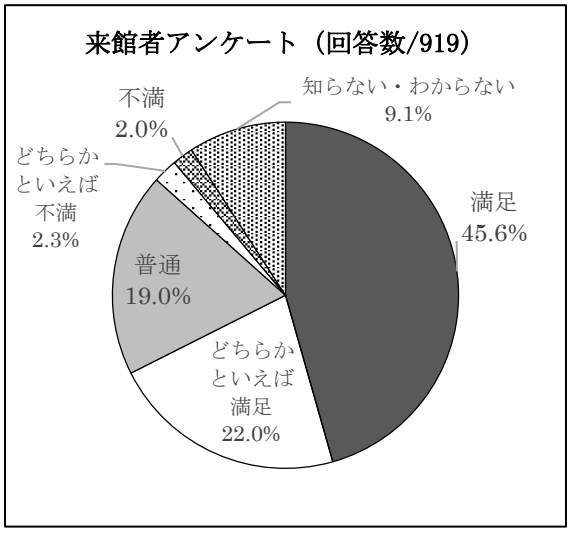
適切な開館時間・開館日数を検討することが必要となります。

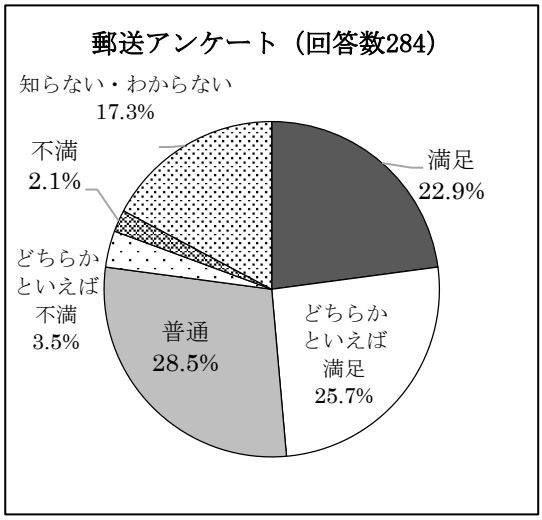
●アンケート設問：祝日開館の満足度





●アンケート設問：夜間開館（本館）の満足度

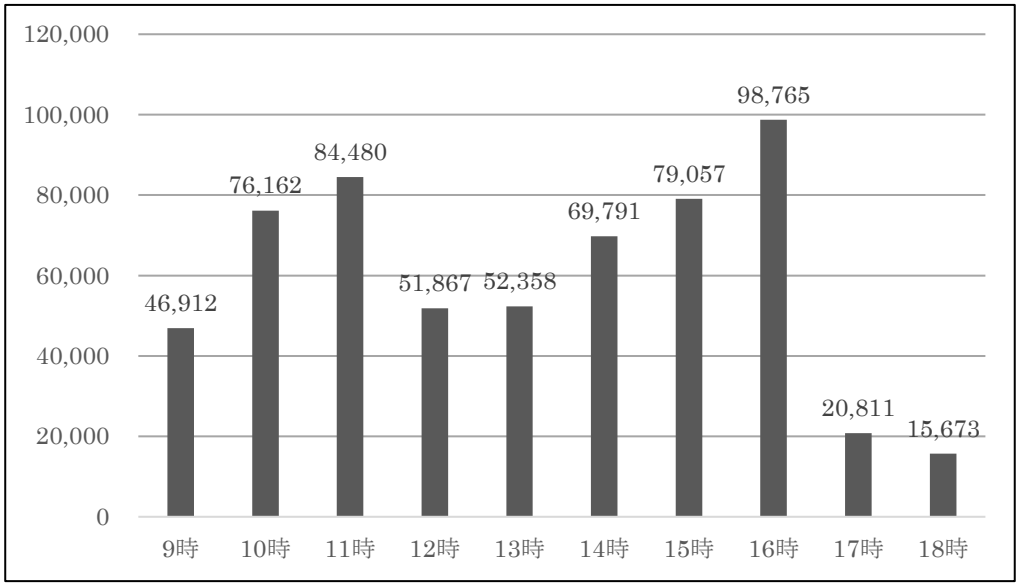




■時間帯別入館者数（平成 27 年度　本館のみ）　単位：人

	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
本館	235, 976	232, 114	227, 123	229, 889	225, 790
うち夜間	22, 253	22, 809	20, 018	20, 659	20, 817
開館日	288	289	288	291	292
	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
本館	218, 980	206, 220	204, 354	192, 303	185, 674
うち夜間	20, 715	19, 552	19, 569	16, 776	16, 406
開館日	290	289	289	294	295

■時間帯別貸出冊数（平成 27 年度）　単位：冊



【具体的な取り組み】

・費用対効果を考慮した、休館日及び利用時間の検討

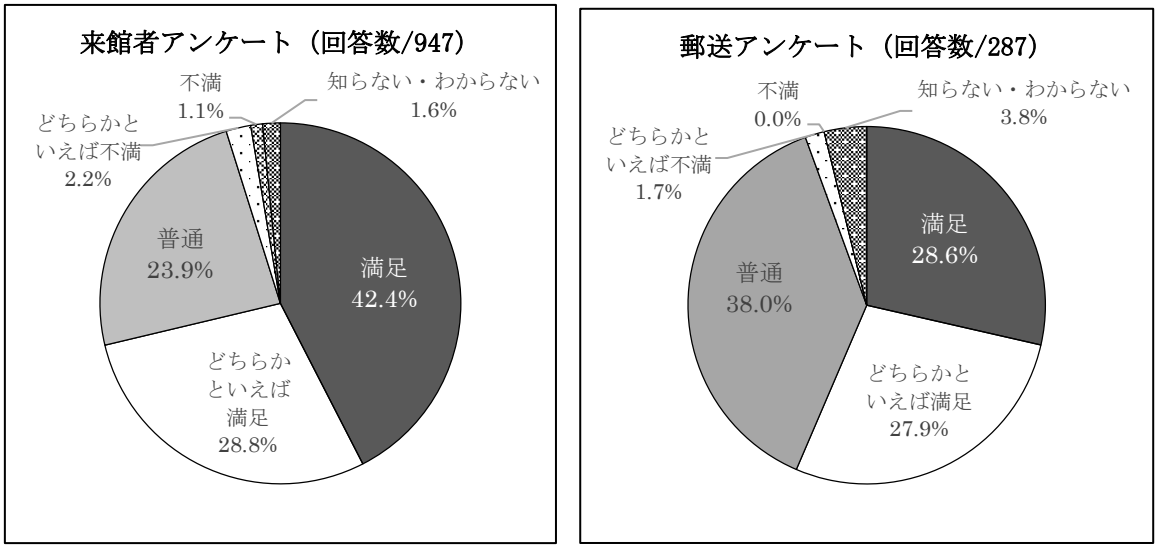
（６）施設・設備等の整備

【現状及び課題】

アンケート結果から、施設設備に関する利用者の満足度は高いといえます。しかし、南部分館は平成３年、本館は平成５年、中部分館は旧図書館を改修して平成７年に開館しており、いずれも開館してから 20 年以上を経過し、修繕の必要な箇所が増えているため、緊急度の高いものから修繕を行っている状況です。

市内７箇所にある公民館図書室も図書館サービスポイントとして整備し、図書館資料の貸出・返却が可能となっていますが、新しい資料がないこともあり年々利用が低下しています。公民館図書室が、現状のサービス内容や設置数でよいのかどうか、市民のニーズを見極め、ネットワークの再構成の検討が必要となっています。

●アンケート設問：図書館の施設や設備の満足度は？



【目指す姿】

快適で安全な施設を目指して計画的な修繕を行っていきます。また、公民館図書室は、市民の要求を見極め、どのようなサービスが求められているのか検討していきます。

【具体的な取り組み】

・快適で安全となるように計画的な修繕の実施
・公民館図書室の運用の見直し

（7）安心して利用できる環境整備

【現状及び課題】

近年、日本全体で大きな自然災害が続いており、それはいつ私たちの身に降りかかるかわかりません。碧南市民図書館では、東日本大震災で被災地の図書館が大きな被害を受けたことを踏まえ、館内の安全点検を実施し、高い書架の棚には図書落下防止テープを添付するなどの対策をとってきました。また、利用者がスムーズに避難できるよう、日頃から職員の訓練も行っています。しかし、大きな自然災害では何が起こるのか不明であるため、対策を取ったから安心というわけではありません。利用者への注意喚起も積極的に行っていきます。

また、誰もが利用できる施設であるため、不審者の入館を完全に防ぐことも難しいのが現状です。しかし、図書館を訪れる人と所蔵資料を守るためには、出来うる限りの備えや、対応策が必要であり、安心もサービスの一つと考えていきます。

【目指す姿】

安全で安心できる施設を目指すため、市役所関係課とも連携し、防災や減災に関する新しい情報を収集し、油断せずに対策を講じていきます。また、市役所の安全係と定期に連絡を行い、地域の情報を収集し、犯罪や不審者への警戒を怠らないように努めます。

【具体的な取り組み】

・防災マニュアルの定期的な見直し
・防災訓練の継続と、職員が少ない場合など、具体的な課題別の対応の確認
・災害時の避難に備えるための利用者への周知
・フロアワーク※9の強化による不審者の防止
・市の安全係との情報の共有

３．地域の歴史や文化・産業を育み、次世代へとつなぐ図書館

（１）地域資料※10の収集と保存

【現状及び課題】

碧南市民図書館では、碧南市に関わる資料および市内で発行された資料や、ゆかりのある人物に関連した資料、碧南市の行政資料の網羅的、継続的な収集を行っています。

これらの資料の収集・保存は、図書館が担う重要な役割の一つであるため、図書だけでなくパンフレットや市民が自作した冊子等も収集の対象としています。しかし収集・保存を徹底するには、日常的に蔵書のチェックや関係機関への依頼、収集した資料のデータ入力、使いやすい形での装備などの業務が必要であり、時間もかかるため簡単ではありません。

碧南市の情報は碧南市民図書館が収集しないと散逸してしまうため、職員間で重要な業務であるという共通の認識を持つことが求められます。また、これらの資料は長期にわたる保存を必要とするため、保存方法には特に配慮をしなくてはいけません。古書や貴重な資料に関しては、現在でも酸化を防ぐための保護シートや保存用の箱を導入していますが、今後は電子化も併せて検討しながら資料の保存を図っていきます。

【目指す姿】

碧南市の歴史や文化、産業についての資料を収集し、保存することは、図書館の大切な業務のひとつです。自分たちの住む土地がどんな歴史を持ち、そこからどんな文化や産業が生まれて現在に至るのかを知ることが、碧南市の未来をつくることにも繋がります。

積極的に地域に関連する資料を収集し、継続的に保存していくことに力を注ぎ、碧南市という地域の歴史を守ります。

【具体的な取り組み】

・行政資料の充実と収集方法の見直し
・碧南市にゆかりのある人物についての資料の収集
・碧南市に関連のある新聞記事の収集
・姉妹都市に関連する資料の収集
・必要に応じた資料の補修
・保存方法の検討
・電子化の検討

（２）地域の企業や団体との連携

【現状及び課題】

碧南市は古くから漁業や窯業、農業が盛んな土地であり、現在も各種産業のバランスがとれていることが特徴としてあげられます。平成 28 年度では、碧南市で「第５回全国しょうゆサミット」が開催されるのに合わせ、図書館では白しょうゆ醸造会社と連携した工場見学や「手作り白しょうゆ講座」等のイベントを開催し、“白しょうゆ”関連資料の展示や図書リストの作成を行いました。また、パンフレット等も図書館の情報として活用できるように登録装備しました。今後も資料を集めるだけでなく、関連企業・団体と連携し情報を発信できる施設を目指します。

【目指す姿】

地域の情報を発信できるよう、地元の企業や団体と連絡を密にして連携を図り、外に開いた施設とすることで、地域の発展に寄与していくことを目指します。

【具体的な取り組み】

・地元産業や商業に関する資料の積極的な収集
・他機関と提携できる企画の発案

４．市民とともに進化する図書館

（１）ボランティアグループ・読書グループとの連携と支援

【現状及び課題】

図書館を運営していくうえで、ボランティアグループの存在は大きなものといえます。碧南市民図書館には、サポート団体である「碧南の図書館友の会」をはじめ、音声訳ボランティアや、おはなし会等で活動する読み聞かせボランティア等の複数のグループが活動しています。ボランティアグループを活性化するためには、継続的な活動人員の募集や、育成・研修のための講座を開催することが必要です。

【目指す姿】

より良い図書館サービスに繋がるように、図書館とボランティアが手を携えていけるよう努めます。また、読書グループを支援することにより、利用者の生涯学習の手助けとなるように努めます。

【具体的な取り組み】

・碧南の図書館友の会との共催事業の継続
・ボランティア向けの各種講座の開催
・読書グループへの情報提供

（２）市民の声に耳を傾ける体制づくり

【現状及び課題】

現在、図書館では利用者の方からのご意見は、電話や直接職員へ申し出ていただく方法の他、今回行ったような利用者アンケートや図書館ホームページからの E メール、市役所全体で行っている「市長への手紙」等で受付をしています。

限られた予算・人員の中で実現できないこともありますが、図書館からの一方的なサービスではなく、利用者の利用状況によって変化していく施設であることを念頭に、いただいたご意見を真摯に受け止めてまいります。

【目指す姿】

図書館のキャッチフレーズである「そこへ行くのが楽しくなるような図書館をめざして…」を体現するために、市民が図書館の事業にも積極的に参加できるような環境を整え、広く市民に開かれた図書館づくりを目指します。

【具体的な取り組み】

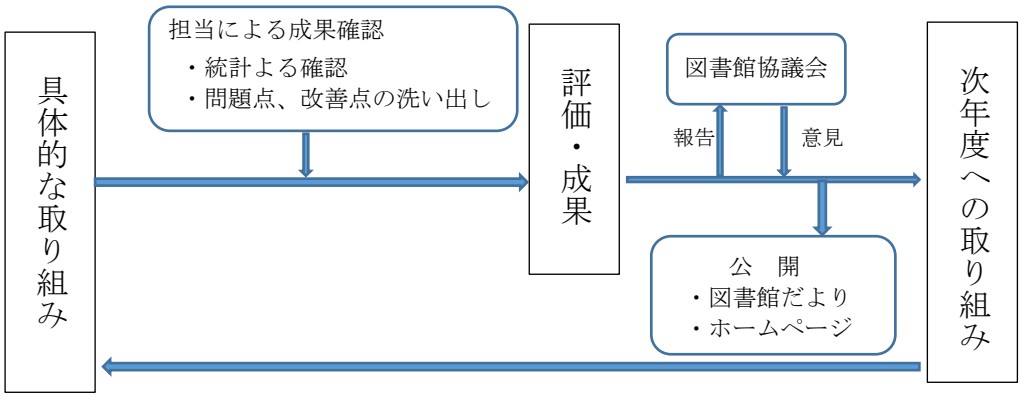
・利用者の意識調査の実施
・ホームページの問合せフォームの継続的な設置

第４章　計画推進のために

今後 10 年間、当計画を着実に実行していくには、進捗状況や取り組み状況、成果を確認していくことが必要です。そのために、図書館内にサービス計画の進捗状況を評価する担当を作り、毎年状況の確認を行うこととします。担当からの評価・成果は、図書館協議会へ報告し、意見を求めるとともに、図書館だよりやホームページ等で公開していきます。

また、『碧南市総合計画』始め、各課策定の推進計画と本計画の内容がかい離しないよう、細心の注意を払う必要があります。そのためには関係部署との協力体制を整備することも必要です。

計画を推進していくためには、財源を必要とするものも多くあり、実際にサービス行うための人材、さらに計画の進捗状況を管理し、自己評価の出来うる経験豊富な人材の育成も必要となるため、財源確保や人材の確保にも努めます。



（１）計画進行の管理

当計画を実行するため、進捗状況を評価する担当を置き、毎年各項目について状況確認と評価、成果の取りまとめを行います。

確認、評価は統計資料を活用するだけでなく、市長への手紙等で寄せられた市民からの意見も考慮し、進行が遅れている取り組みに対しては原因や改善点を考えるなど、計画全体の進行を管理します。

【現状と課題】

『碧南の図書館サービス計画（第一次）2007～2016』に沿って、さまざまな取り組みを実施していますが、個々の取り組み状況をまとめ、進捗状況を管理し、評価するする体制づくりができていません。

【具体的な取り組み】

・進捗状況確認担当の設置
・個々の進捗状況を数字や具体例で評価
・全体の進捗状況の管理
・必要な統計資料の整理

（２）推進体制の整備

計画推進のため、毎年図書館協議会に対して評価、成果を報告し意見を求めます。協議会より出された意見は次年度以降の取り組みに反映するようにいたします。

また、計画推進には、図書館単体でなく、教育委員会、福祉や産業、情報処理など市役所関連部署の協力が必要な取り組みもあります。必要に応じて、そのための協力体制の整備を図ります。

【現状と課題】

計画推進に関する進捗状況の定期報告は行っていません。また、市役所各部署との連携は美術館、水族館、芸術文化ホールなど教育部門を中心に実施しており、連携体制は良好といえます。さらなる計画推進のためには、市役所各部署との連携も強化していく必要があり、どのような形で協力が得られるか相互理解が必要です。

【具体的な取り組み】

・図書館協議会への状況の報告、協議会委員の意見の検討
・市内の社会教育機関との連携強化
・市役所各課との連携体制の強化
・他課の推進計画などへの協力、参加

（３）人材と財源の確保

計画推進には具体的な取り組みを行う人材、必要な資料提供などを行う予算が必要となります。また、進捗状況の確認や、市役所関連部署との連携には図書館サービス経験の豊富な人材が必要となります。そのために、職員数の確保と一人ひとりの能力向上を図り、財源確保に向けた取り組みも検討します。

【現状と課題】

現在、正規職員数は兼務職員を含めて 10 名で、有資格者数は年々減少しています。また、図書購入にあてる資料購入費もｐ．８「平成５年（新図書館開館）からの利用者数等推移」のとおり、平成 21 年度より大幅に減少しています。

当市では「財政再スタート宣言」による事務改善により、リーマンショック後の危機的状況から少しずつ改善され、平成 27 年度決算状況は健全な財政状況であると公

表されています。しかし、まだ余裕がある状況とはいえないため、人員増、資料費増に努めるだけでなく、より一層効果的な運営を検討していく必要があります。

■正規職員数の推移　単位：人

	平成５年度	平成 10 年度	平成 15 年度	平成 20 年度	平成 25 年度	平成 28 年度
正規職員数	15	17	13	11	11	10
（内有資格者）	12	11	10	9	9	8

※平成５年は７月１日現在、その他は４月１日現在の人数

【具体的な取り組み】

・各種研修への参加

・館内研修の実施

第５章　具体的な取り組み時期一覧

第３章　サービス計画

施策の体系		事業名	取り組み時期（年度）	
			前期 H29～H33	後期 H34～H38
1 豊かな情報源としての図書館	(1)資料の収集	本館分館それぞれの利用者層にあわせた選書	A	→
		碧南市に関する資料の積極的な収集	A	→
		芸術文化ホールの催事に関連した資料の収集	A	→
		多言語や字幕入りの映像資料の収集	A	→
		雑誌のスポンサー制度の導入	B	→
		状況の変化に対応しての選書基準の見直し	C	→
	(2)資料の保存と廃棄	効率的で適正な蔵書の保存	A	→
		不必要となった資料の廃棄	A	→
		「あいちラストワンプロジェクト」への参加継続	A	→
	(3)インターネットを使ったサービスの活用	利用者インターネットパソコンの維持確保	A	→
		有料データベースやデジタルコンテンツ導入の検討	C	→
		持込みパソコンの電源確保や館内のＷｉＦｉ導入の検討	C	→
	(4)レファレンスサービスの強化と活用	サービスの周知	A	→
		職員の能力向上のための研修の実施	B	→
		パスファインダーの作成	C	B
		職員に対して気軽に声をかけることのできる雰囲気づくり	A	→
	(5)－①ホームページの活用	ホームページ利用のＰＲ	A	→
		わかり易く、魅力的なホームページづくり	A	→
		新しいコンテンツの検討と導入	C	B
		郷土のレファレンスを中心とした事例集の積極的な公開	A	→
	(5)－②広報や地域紙等の活用	積極的な報道発表	A	→
		「フリモかわら」「たんぽぽニュース」等、地域紙やタウン誌の活用	A	→
	(5)－③図書館キャラクター「へきにゃご」の活用	へきにゃごを活用したイベントの開催	A	→
		へきにゃごブログのＰＲ	B	→

Ａ＝継続して実施するもの

Ｂ＝計画中に実施を予定するもの

Ｃ＝計画期間中に実施検討・調査するもの

施策の体系		事業名	取り組み時期（年度）	
			前期 H29～H33	後期 H34～H38
2 誰もが利用しやすい図書館	(1) - ①子ども・ヤングアダルト	保健センターでの母子健康手帳交付時、産前産後の図書館活用のＰＲチラシ配布	A	→
		「よむよむタイム」の啓発	A	→
		各施設でのおはなし会の実施	A	→
		市民図書館の団体貸出の活用	A	→
		読書活動を取り入れた学習の実施	A	→
		各教科における調べ学習に役立つ資料の充実	A	→
		学校図書館司書研修会の開催	A	→
		幼稚園、保育園での継続した読み聞かせ	A	→
		落ち着いて楽しめる読書スペースの確保	C	→
		妊娠期の保護者を対象とした図書館ＰＲ行事の検討と実施	C	→
		としょかんキャラクター「へきにゃご」を活用した図書館のＰＲ	B	→
		団体貸出用の外国語図書の充実	B	→
		教科書に準拠した資料の充実および買い替え	A	→
		既存の推薦図書リストの見直しと改訂	B	→
	(1) - ②成人へのサービス	知的好奇心を刺激するような講座等の開催	B	→
		時事問題をとりいれた、複数の小規模特集コーナーの設置	A	→
	(1) - ③シニア層へのサービス	見やすい活字資料の充実	A	→
		シニア層が使いやすい、音声･映像資料の拡充	B	→
		高齢者施設向けの紙芝居などの購入	B	→
	(2) 障害がある方へのサービス	障害者サービスのＰＲ	A	→
		関連する行政担当や、福祉施設との連携	A	→
		館内表示やバリアフリー化の定期的な見直し	B	→
		耳の不自由な方のための日本語字幕入りの映像資料の収集	B	→
		点字、音声、大きな活字の利用案内の作成	B	→
		サピエ、ライトハウス等、関係機関との情報交換	A	→
	(3)多文化（国際化）サービス	在住外国人を考慮した言語の資料収集	A	→
		日本語や日本の生活を学ぶための資料の購入	A	→
		外国語で書かれた行政資料の収集	A	→

施策の体系		事業名	取り組み時期（年度）	
			前期 H29～H33	後期 H34～H38
2　誰もが利用しやすい図書館	(4)未利用者への働きかけ	5年ごとの郵送アンケートの実施	B	→
		話題となるようなイベントの開催	A	→
		マスコミを利用した情報発信	A	→
	(5)運営に関する再検討	費用対効果を考慮した、休館日及び利用時間の検討	C	→
	(6)施設・設備等の整備	快適で安全となるように計画的な修繕の実施	B	→
		公民館図書室の運用の見直し	C	B
	(7)安心して利用できる環境整備	防災マニュアルの定期的な見直し	A	→
		防災訓練の継続と、職員が少ない場合など、具体的な課題別の対応の確認	B	→
		災害時の非難に備えるための利用者への周知	B	→
		フロアワークの強化による不審者の防止	A	→
		市の安全係との情報の共有	A	→
3　地域の歴史や文化・産業を育み、次世代へとつなぐ図書館	(1)地域資料の収集と保存	行政資料の充実と収集方法の見直し	A	→
		碧南市にゆかりのある人物についての資料の収集	A	→
		碧南市に関連のある新聞記事の収集	A	→
		姉妹都市に関連する資料の収集	A	→
		必要に応じた資料の補修	A	→
		保存方法の検討	B	→
		電子化の検討	C	B
	(2)地域の企業や団体との連携	地元産業や商業に関する資料の積極的な収集	A	→
		他機関と提携できる企画の発案	A	→
4　市民とともに進化する図書館	(1)ボランティアグループ・読書グループとの連携と支援	碧南の図書館友の会との共催事業の継続	A	→
		ボランティア向けの各種講座の開催	A	→
		読書グループへの情報提供	A	→
	(3)市民の声に耳を傾ける体制づくり	利用者の意識調査の実施	B	→
		ホームページの問合せフォームの継続的な設置	A	→

第４章　計画推進のために

施策の体系	事業名	取り組み時期（年度）	
		前期 H29～H33	後期 H34～H38
(1)計画進行の管理	進歩状況確認担当の設置	C	B
	個々の進歩状況を数字や具体例で評価	C	B
	全体の進歩状況の管理	B	→
	必要な統計資料の整理	A	→
(2)推進体制の整備	図書館協議会への状況の報告、協議委員の意見の検討	B	→
	市内の社会教育機関との連携	A	→
	市役所各課との連携体制の強化	B	→
	他課の推進計画などへの協力、参加	A	→
(3)人材と財源の確保	各種研修への参加	A	→
	館内研修の実施	B	→